

会員の皆様へ：年会費納入の情報：郵便封筒の宛名下の数字参照。2022は2022年度まで納入済み。

しのばず自然観察会より 2022-9 2022.09.01

2022年9月の活動 不忍池定点観察

集合：2022年9月11日（日）午前10時 不忍池 蓮池南西端
緑の小旗あり（野外ステージ西側、湯島天神下交差点寄り） 今回は雨天中止
持物：筆記用具、双眼鏡、雨具 飲み物、マスク、敷物、日傘、（昼食）
解散は午後1時頃ボート池畔または藤棚 暑さ対策も！



不忍池がある台東区では、週当たりの新型コロナ新規感染者数は検査数の減少もあり、ピーク時7月下旬の半分ほどになりましたが、感染率は50%を越えたまま高止まりになっています。一方、生活行動・レジャーは緩め放しで以前のような制限が発動されていません。気を緩めることなく、感染防止に努めてください。

10月の活動予定 不忍池定点観察

2022年10月9日（日）午前10時 不忍池 蓮池南西端集合 の予定です。

2022年8月の活動 不忍池定点観察 より

前日からの台風による雨が朝方まで残った8月14日（日）、傘を持って出かけましたが曇りのち晴れの空模様のもと、5名が参加しました。ハスの花が残ってはいるものの、蜂巢（はちす）が林立。ガマも雄花が落ちて軸だけになり、根元の雌花はこんがりきつね色。立秋も過ぎて、これから秋の気配が徐々に深まっていくのでしょうか。草刈りが直前にあったようで、草本は目立ちませんでした。

ボート池にはウチワヤンマが健在でした。また、弁天堂後ろの蓮池・動物園池（弁

しのばず自然観察会 事務局 〒110-0001 台東区谷中3-1-9 小川潔 方
1975年創立 電話 03-3828-8775 URL: <http://sinobazu.extrem.ne.jp>
郵便振替 00100-8-84609 しのばず自然観察会 年会費 2,000円 ほかに行事参加費

**2021年以前の会費未納の方も忘れなく！退会の場合は早めに葉書で事務局へ。

天池) を分ける堰には、大きなコイのほかに、小魚が見られました。メダカを連想させる大きさですが、メダカは不忍池にはいません。それに尾びれがメダカとは違って切れ込みがあることや、横腹の前から後ろにかけて1本の筋模様が見られるので、モツゴ(不忍池ではクチボソと呼んできました)の幼魚と判断しました。

この日、ポート池西側畔で気づいたのが「鑑真像」というプレートが付いた金属らしい彫刻。設置者もいわれも示されていません。

ネットで検索すると、ほとんどが外国系通信社によるニュースで、中国の著名彫刻家の作品で上野公園に恒久設置、都知事や在日中国大使出席で除幕式が7月20日(7月の観察会の翌週)にあったとあります。不忍池に設置する理由は特に書いてありません。よい空き地だと思われたのかも知れません。このあたりはかつてカントウタンポポの群落があったのですが、1980年前後に短期間の仮設舞台(演劇テント)が造られ群落は消滅しました。上野公園・不忍池は空き地という発想はやめてください。

すでにこの像の北へ数十mには、「鳥」と謳う抽象像が設置されています。不忍池の園路と水面との間が人工物でふさがれていくとしたら困りものです。不忍池に彫刻類を誘致するプロモーター・出資者がいるのでしょうか?

検索していたら、「不忍池ファイヤーアート和火・茶火 日比野 克彦 + 島田 清夏 静寂の池に咲く侘び寂び 夏の夜空を彩る花とは異なる花が不忍池に咲きます 都会の中に潜む不忍の闇を彩るファイヤーアート 和火・茶火を目撃してください 展示期間 : 10.21(金) 18:30~15分程度」というのが出てきました。2016年秋実施の写真が付いていました。これを見ると、水面から仕掛け花火でたくさんの光柱を空中に噴き出す構図です。10月下旬と言えば不忍池では渡り鳥の飛来シーズン、鳥獣保護区にこんな仕掛けをして、野鳥を追い払うことに加担しませんか?もう二度としないほしいです。



左・中 : ハスの花とはちす (実をつけた花托) 右 : ガマの穂 (緑から茶色に変わった雌花あと)



ウチワヤンマ



モツゴ (クチボソ)



高さ約2mの「鑑真像」

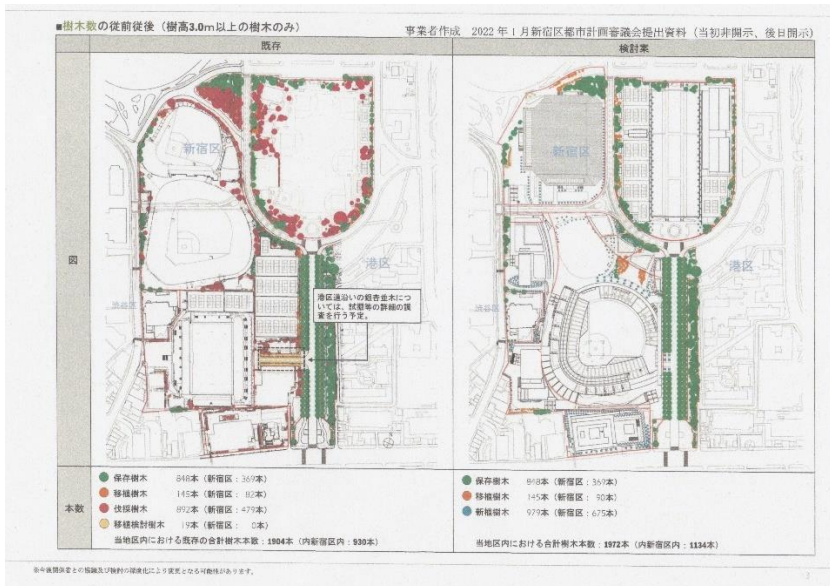
8月の観察記録メモ 動物：カルガモ、カワウ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス、ドバト、コイ、モツゴ、シオカラトンボ、チョウトンボ、ウチワヤンマ、ギンヤンマ、オニヤンマ？（飛翔中で見分けられず）

植物 開花（または実）：マメグンバイナヅナ、ハス（移入）、ガマ（移入）、キョウチクトウ（移入）、ミソハギ（移入）、アレチノギク？

明治神宮外苑の再開発に注目を！

明治神宮外苑では、新国立競技場建設とそのお膳立ての風致地区規制緩和（高さ制限を競技場に合わせる）に引き続き、超高層ビルや競技場建設の計画が具体化しています。東京都環境影響評価審議会は8月に異例の、原案了承ではなく、今後も審議会として未検討事項を含めて開発プロセスの各段階で関与するという決定をしました。しかしマスコミの一部は、都の事務局からのレクチャーを鵜呑みにして「計画通りに決まった」という誤った情報を垂れ流しました。

計画では、商業オフィス等が入る 190m級ビル2棟、80m級1棟建設、多量の樹木を伐採（既存 1904 本中、伐採 892 本など）、一般市民が利用してきた軟式野球場を廃止し、そこに会員制テニス場を移転させ、移転拡大の神宮球場にはさらにホテルを併設し銀杏並木に数mまで迫ります。しかもこれらは当初公開された計画にはなく、その後も黒塗りで隠されてきたもので、都の都市計画審議会や都議会が終わったあとで公表されました。この再開発計画は 20 世紀に流行ったスクラップ アンド ビルト、壊して新しく造る方式です。消費する資源も、出て来る廃棄物も莫大です。そもそも外苑は、大正時代に国民（臣民）の献金で造られた場所です。開発事業者は、建造物計画には全く触れずに、献木や植樹に参加をするのが「市民参加」だと答えています。国民による注視の眼が何より規制の力になります。諸団体には、会報等で周知と可視化のご協力を！



2022年1月になって新宿区環境影響評価審議会に事業者から提出されながら、非公開、4月都議会開会の翌日に公開された図。左が現況図で、赤は伐採予定樹木。右は完成図。超高層ビル認可の引換に、国際競技に必要なサブトラック計画廃止、会員制テニス場移転なども。